

編集室

* 本会誌では例年7月号に名誉員推薦・学会各賞贈呈の記事を掲載しておりますため、特集・小特集はお休みとなることを御承知おき下さい。名誉員となられた方々、各賞を受賞された方々、誠におめでとうございます。

* 本年2015年は「国際光年」、正確には「光と光技術の国際年 (IYL2015)」です。国際年とは国際連合総会において採択・決議されるもので、特定の事項に対して特に重点的問題解決を国連をはじめ全世界の団体・個人に呼びかけるための期間のことです。2005年は「国際物理年」、2011年は「世界化学年」でした。

* 2015年がなぜ国際光年となったかといいますと、1015年のイブン・ハイサムによる光に関する先駆的な研究（日本では余り知られていませんが）、1815年のフレネルの光波動説、1865年のマクスウェルの電磁理論、1905年と1915年のアインシュタインの光電効果と一般相対性理論、1965年のペンジアスとウィルソンによるマイクロ波背景放射の発見とカオによる光ファイバ通信に関する業績など、2015年が光科学の歴史における一連の重要な画期的な発見・発明の記念年であるためです。

* 光技術はあらゆる科学技術から芸術、文化の中核を成すものです。光に関する新しい知識と光関連の活動を促進することの重要性を一般社会の中に浸透させていくため、国際光年を宣言し、その推進にはユネスコが関わっています。日本では日本学術会議の総合工学委員会 ICO 分科会が、国際光年の受け皿として活動を推進しています。既に4月21日に東京大学で国際光年記念シンポジウムが開催されました。

* 光技術は電子情報通信においても、光ファイバ通信、撮像・記録、センシング、発電、照明などで重要な役割を果たしていることは御存じのとおりです。先月号に講演録を掲載させて頂きました、昨年日本国際賞を御受賞された末松安晴先生のレーザと光ファイバ通信に関する御研究、また8月号に講演録を掲載予定の、昨年ノーベル物理学賞を受賞された天野浩先生と中村修二先生の青色LEDに関する御研究もこの分野に属します。本会誌でも光技術に関する記事を積極的に取り上げたいと思います。

(編集特別幹事 山下真司)

会誌電子配信トライアル募集

将来の技術を見据えるとともに会員への更なるサービス向上を目指して、スマートホンなどへの会誌プッシュ型配信サービスの500名限定トライアルを実施致します！

会告688ページを御覧頂き、是非お申込み下さい。